

# 令和2年度 第1回伊東市政モニター会議録（要旨）

日時 令和2年6月30日（火）午後2時～3時30分

場所 市役所7階 特別会議室

出席者 市政モニター10人

市長、若山副市長、中村副市長、企画部長、秘書課長、担当

## 1 開会

## 2 委嘱状交付

## 3 市長あいさつ

今年度は10名の市政モニターを委嘱した。現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大という困難に直面しており、市では様々な対策に取り組んでいるが、モニターの方々からの様々な意見をお寄せいただき、施策に活かしていきたい。

## 4 モニター自己紹介及び当局紹介（省略）

## 5 懇談

### 新型コロナウイルス感染症対策について（秘書課長）

（新型コロナウイルス感染症対策に関する市の取り組みを説明）

### 日頃思っていることや伊東市の将来、地域の課題などについて

#### 【モニターE氏】

昨年大きな台風が2回来て、友人が八幡野コミュニティセンターに避難しましたが、その経験談を聞くと、このコロナ禍で避難所に避難することに不安を感じています。市は現時点でどのような対策を考えていますか。

#### 【市長】

まず、3つの密を防ぐには大きい避難所が必要であるため、小中学校の体育館での開設を予定しています。

また、プライベートスペースや通路を確保するため、段ボール仕様の仕切りを購入する準備を進めています。なるべく7月中に行って台風にも備えたいと考えています。

さらに、9月頃はまだ暑さが和らいでおらず、換気も窓を開けるだけでは不十分ですので、大型の扇風機を準備するよう指示を出しています。エアコンの方が望ましいとは思いますが、見積を取ったところ、1か所の体育館で5,000万円以上かかり、設置が難しいということがわかりました。

最後に、避難所に行くことだけが避難ではないということがあります。避難所に行かない方が安全な場合もあり、適切な判断ができるように情報を発信していきたいと思います。台風の雨風の音で同報無線がほぼ機能しないと思われるので、メールマガジンやSNSなどを通じてしっかりとお知らせしていきます。

#### 【モニターF氏】

私が勤務している介護事業所の新型コロナウイルス対策についてご紹介したいです。医療・介護分野が一番対応に苦慮したと思います。どうしても職員と利用者との距離が近くなるため、常に感染の危険を伴います。私が勤務している介護事業所では、4月1日に対策本部を設置し、「感染しない、感染させない、感染を広めない」を基本に、様々な対策を行いました。県外にいる家族の帰省を断る、県外には行かない、パチンコ店をはじめ感染の危険がある場所には行かない、事業所内でも他のフロアには行かない、出勤する前に検温をし、出勤後にもう一度検温をする、前日の行動を申告するなどしていました。これらの対策の結果、感染者を出さずに今日を迎えることができました。

一番困ったのはマスクです。最初は会社で支給されていましたが、確保が困難となり、自費購入や自作するように指示が出ました。その後、介護施設を優先にアベノマスクが届けられましたが、話しているうちに外れてしまうなど、使い心地が悪く、使っている職員はいませんでした。その次に困ったのは消毒用アルコール類で、皆必死になって探しました。

#### 【モニターJ氏】

このコロナ禍の中で海の家や市営プールを開くことについて、市民にもっと説明が必要だったのではないのでしょうか。もし、今後市内で感染者が出た場合、幼稚園・保育園、小学校、中学校の対応はどのようになるのでしょうか。行政や教育委員会からの子育て世帯への情報発信がとても少なく感じました。3ヶ月間休園・休校となり、子育て世帯は金銭的にも精神的にも苦しく、何とか耐えてきました。今後の対応を早急に説明してほしいです。

#### 【市長】

海水浴場の開設に当たっては、警察署への臨時派出所の設置要請や、ライフセーバーの確保などかなり前から準備が必要で、特にライフセーバーは早く依頼

しないと来てもらえないため、早い段階で決断する必要がありました。夏になれば海に泳ぎに来る人達は必ず出てくることが予想され、事故防止のため監視体制を整える必要があります。海の家の場合でも自主的に休業するかどうか検討しましたが、一部規模を縮小して営業を行うということでありました。これが決まったのがつい最近のことであったため、皆さんにお知らせする時間がなかったことについては、ご容赦いただきたいと思います。海水浴場の開設の目的が、海の事故を防ぐ監視体制を整えるためであるということは、先にお伝えすべきであったと思います。

次に、感染者が出た場合の幼稚園・保育園・小中学校の対応については、感染のリスクが高まった場合は休園・休校にすることとしています。また、情報発信については、各学校のHPや担任からの連絡などで保護者への周知を図ったところではありますが、もしかしたら家族内でも、母親は知っているが父親は知らない、というようなことがあったかもしれません。学校の先生たちは生徒のことをとても心配していたと聞いています。

子育て世帯への情報発信と経済的支援については、先程社会福祉協議会の内田さんからお話がありましており、貸付の制度もありますので、皆さんにお知らせしていきたいと思います。また、今後も経済対策を打ち出していく予定でありますので、本日いただいたご意見を踏まえ、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

#### 【モニターA氏】

数点お伺いします。一つ目は、私の周りでは特別定額給付金の支給が遅いという声が多かったです。市で立て替えて支給したという所もありましたが、そのような対応はできなかったのでしょうか。二つ目は、海水浴場や市営プールは開設し、按針祭は中止ということになりましたが、どのような優先順位で決定されたのでしょうか。三つ目は、伊東市には大きな病院が市民病院くらいしかないので、医療の充実を図ってほしいです。四つ目は、今後感染者が出た場合、PCR検査などどのような対応策を考えているのか知りたいです。五つ目は、幼稚園や保育所の充実も大事だと思っていますので、対応をお聞かせいただければと思います。

#### 【モニターF氏】

先日感染者が出た際に、その感染者が歯医者に行ったことが公表されましたが、どこの歯医者かがわからなかったため、市内の歯医者予約がみんなキャンセルになったという話を聞きました。市民の不安を取り除くような情報の開示ができないのでしょうか。

**【市長】**

まず、特別定額給付金については、県内では藤枝市が生活困窮世帯を100世帯抽出し、優先的に立て替え払いをしたという報道がありました。伊東市では、間違いがあってはいけないということと、優先順位の検討や抽出に時間をかけるよりも、皆さんに少しでも早く支給する方が良いという結論に至りました。結果として、当初は5月25日から申請の受付を開始する予定でしたが、13日に早めることができました。

**【モニターE氏】**

伊東を含めて伊豆半島は支給が早かったように思います。首都圏にいる子どもに支給されたと伝えたところ、「こちらは申請書すら届いていない」と言っていました。それほど遅いという感覚はありませんでした。

**【モニターC氏】**

私も同じです。東京はまだまだです。知人に伊東は振り込まれたと話したところ、「伊東はいいな」と言われました。それぞれの立場によって見方が違っているのだと思います。

**【市長】**

特別定額給付金事務局の職員7名が休日を返上して作業に取り組んだほか、休園・休校中だった幼稚園の先生や学校の栄養士など延べ600人が作業に参加し、6月25日の時点で95.7%の世帯に支給することができました。まだ申請されていない方もいらっしゃいますので、今後100%に近づけていきたいと思っています。

二点目の海水浴場や市営プールの開設と按針祭の中止との整合性については、按針祭は20万人の方が集まり、密の状態が避けられないため、中止といたしました。海水浴場については先程申し上げたとおりです。

次に医療についてですが、PCR検査は医師会のご協力により実施していただいているところです。

次に感染者に関する情報の開示についてですが、法律に基づいて最大限開示しているものですので、ご理解いただきたいと思います。個人情報については本人の承諾がなければ開示できないことになっています。

次に幼稚園・保育園についてですが、最近では保育園に行くお子さんが多くなっています。待機児童0人を目指していますが、マッチングが上手くできないケースがあり、今年は5人いらっしゃいます。ここ数年で、民間事業者が小規模の保育所、特に0歳児も預かってもらえるような保育所を数件作っているため、そういった事業者への支援を行って増やしていきたいと思っています。また、今年の4月

には市の保育士を6人新規に採用し、保育環境の整備に努めるなど、今後も手厚い保育が提供できるように体制を整えてまいりたいと思います。

#### 【モニターB氏】

県外ナンバーの車が「伊豆在住です」というステッカーを貼っていました。やはり県外ナンバーだと駐車場に車を止める時など、はばかりされると。また、SNSで個人情報が流出しており、中には根も葉もない情報もあるようです。ある程度の情報開示でそういった風評被害を防ぐことができるのではないかと思います。

二つ目に、新型コロナウイルスの影響で飲食業や宿泊業が休業により大きなダメージを受けています。伊東市では5,000円の宿泊の補助をされましたが、すぐに応募がいっぱいになったと聞いています。そういった経済対策を今後どのようなスケジュールで行っていくのかお聞きしたいです。宿泊業界ではマイクロツーリズムが注目されていますが、県中部や西部の方は伊豆をよく知らない方もおられるので、そういった方々に旅費の補助を行ったり、伊豆の魅力や特色、特産品や料理などをPRするような計画はあるのでしょうか。

#### 【市長】

情報開示については、先程申し上げたように法律によって定められています。フェイクニュースのような事実とは異なる情報への対応は難しく、市民の皆さんにはメールマガジンなどで市から発信する正しい情報に基づいた冷静な行動をお願いしてまいりました。今後とも開示できる情報はしっかり発信してまいります。県外ナンバーの車については、市でステッカーを作ってほしいという声もありましたが、検討した結果個人で作っていただくということになりました。

次に経済対策についてですが、先駆けて行ったのは、ゴールデンウィーク期間を中心に宿泊をキャンセルされた方や各宿泊施設のお得意様など5,000人を抽出し、私からの直筆のお手紙と伊東温泉の素、地場産品プレゼントの応募はがきをお送りしたところ、大変好評をいただきました。次に行ったのが、先程お話のあった静岡県民3,500人を対象に5,000円の宿泊割引券をプレゼントしたg o ! I T Oキャンペーンです。応募者の2割以上が伊東市の方で、次いで多かったのは静岡市の方でした。現在山梨県との行き来は可能になっています。今までは首都圏からの集客に力を入れて来ましたが、今後新しいエリアからの集客にも取り組んでまいりたいと思います。

#### 【モニターC氏】

三点ほどお聞きします。一つ目は、新型コロナウイルス対策の件です。海水浴場の開設について、先程市長がおっしゃっていたことは初めて聞きました。市長

のお考えが市民に伝わっていません。もっと発信することで市民の安心につながると思います。警察官やライフセーバーを増やすのは良いと思うのですが、2mのソーシャルディスタンスを保つことや、飲食したごみを捨てないといったことは非常に難しいと誰もが思うところであります。そこで、これを一つの事例として、専門家を交えて研究、検証を行う場とするとさらに安心につながるのではないのでしょうか。

二つ目は、観光に関することです。伊東商業高等学校の生徒に話を聞くと、「もっとたくさんの人に伊東に来てほしい。」という声がある一方で、「でも伊東の温泉は全然知られていない。」といった声がありました。私の世代では某有名ホテルのCMで伊東はよく知られていました。伊東は魅力のあるところですので、やはりメッセージの発信の仕方次第だと思います。クラウドファンディングを利用して、インセンティブをつけて将来のためにストックしておくというようなお考えはありますか。また、シティープロモーションなどはやっていらっしゃいますか。

最後に、教育についてです。地元で根差したことについて、若い人達が夢を持っています。高校生が「観光の案内をしたい」と言っていました。コミュニティーがお客様を受け入れて、そこに商業が重なって活性化していくような、市民同士のつながりを作っていくには、市民教育が必要だと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

#### 【モニターF氏】

クラウドファンディングのお話がありましたが、特筆すべきは下田市と西伊豆町での取り組みだと思います。下田市の38件くらいの飲食店が、クラウドファンディングを利用して2,000万円を集め、みんなで助け合ったと聞きました。西伊豆町はふるさと納税でたくさんの寄附が寄せられているため、早々に休業要請を出して給付金を支給していました。苦しい時に様々な工夫をしてみんなで助け合うことで、自分の街に来てほしいという思いが相手に伝わるのではないかと思います。

#### 【市長】

一点目の海水浴場について、私の考えが上手く伝わっていないというご指摘がありました。今からでも遅くありませんので、海の家ガイドラインを公表するなどして注意を呼び掛けてまいります。海水浴客へは警察官やライフセーバーに巡回してもらい、ソーシャルディスタンスを取ってもらうよう声かけを行う予定です。

二点目の観光についてですが、別府のような大々的なPRをしたいと思っておりましたが、色々と難しい部分がありました。今後はアフターコロナに向けて、

若い職員や民間の皆さんと力を合わせて画期的なものを作っていきたいと思えます。クラウドファンディングやふるさと納税については、まだまだ足りないと思えますので、固定客や人を引き連れて来てくれるような大きな企業などに向けて発信していきたいと思えます。また、私の長い政治活動の中で培った人脈を活かして呼びかけていくことで、多くのお客様に来ていただけるのではないかと思っています。シティープロモーションはこれまでも行っておりました。ロケツアーリズムによる集客を図るため、この夏に東京でロケ地のプレゼンを行う予定になっていますので、各メディア関係にも接触を図っていきたいと思えます。

最後に教育についてですが、以前から伊東高等学校と伊東商業高等学校の生徒に「観光おもてなし特派員」を委嘱しておりますが、今後もっと広げていくことを考えていきます。また、高校の授業に観光地に特化した教育プログラムを取り入れられるよう、県に伝えていきたいと思えます。

**【モニターD氏】**

中小企業応援給付金を申請した事業者がかなりあると思えますが、市の財政は大丈夫ですか。

**【市長】**

かなりの痛手です。まず、伊東市は事業者の負担を軽減するため、利子補給を行い、10年間無利子としました。その後休業要請に対する協力金、そして売り上げの減少に伴う応援給付金の支給を実施しました。合計で7億円の予算を計上しています。その7億円の予算を捻出するため、今年度すでに決まっていた事業を中止や延期することとしました。何を置いても市民の生活を守るために対策が必要だと決断いたしました。

**【モニターH氏】**

新型コロナウイルス感染症拡大防止と経済を回すことを両立していくのは難しいと思えますが、バランスをどのように考えていますか。

**【市長】**

本当に難しいです。これまでは感染拡大防止に努めてまいりましたが、これからは新しい生活様式を取り入れながら、段階的に経済の回復を目指したいと思えます。まずは地元の企業を応援するため、皆さんが市内でお買い物できるように、いとうエールクーポンという商品券を発行します。好評であれば繰り返し行っていきたいと考えています。また、本来なら外貨獲得を目指したいところですが、現状ではインバウンドは困難ですので、首都圏のお客様や、今まで伊東にお越しにならなかった県内や中京圏、関西圏のお客様など、広範囲のお客様を呼び

込んでまいりたいと思います。

**【モニターF氏】**

伊豆介護センターに勤めているボッチャの杉村英孝選手が、世界ランキング2位と好成績を修めています。以前杉村選手と握手ができるイベントがあった際、子どもたちが集まりとても興奮していました。パラリンピックもありますので、杉村選手を中心に伊東を「ボッチャの街」にしてはどうでしょうか。子供から高齢者、障害者もできるスポーツで、費用もそれほどかかりません。

以 上